

法然聖人・源信和尚(恵心僧都)の旧跡日帰り巡拝しおり

1. 目 的	法然聖人・源信和尚(恵心僧都)の旧跡日帰り巡拝
2. 巡 拝 地	八瀬登山口→黒谷道→青龍寺→横川→西塔・東塔(延暦寺BC)→市内
3. 所 在 地	京都市左京区八瀬秋元町・大津市坂本本町
4. 巡 拝 日 程	2019年11月30日(土)

注意：祖師の旧跡を参拝する意義を理解したうえで、僧侶にふさわしい言動を心掛けて下さい。

青龍寺・恵心堂では勤行を予定しています。(布袍・輪袈裟・念珠を持参)

恭敬の心を忘れず、ゴミなども持ち帰るようにしましょう。

5. 行程

8:15 四条河原町E乗り場集合(8:17発京都バス)

9:20頃 登山口(標高165m)

↓ 標高差75m

9:30頃 べんてつ観音(標高240m)

黒谷道を経て(道標青龍寺2番から青龍寺12番まで)上がる

↓ 標高差340m

10:30頃 青龍寺着(標高580m) 本堂前にて勤行予定

↓ 標高差110m

11:40頃 玉体杉(標高690m)

12:10頃 横川エリア到着(昼食)

12:30頃 横川中堂・恵心堂(標高630m)(堂前にて勤行)

14:00 シャトルバス横川発→約6分→峰道着

15:00頃 西塔・東塔を経て延暦寺BC

15:18 帰路のバス(16:08三条京阪着) / 次発16:06(16:55三条京阪着)

青龍寺・横川を経て西・東塔を巡拝

11月30日(土)



青龍寺（2018年に前年の台風で損壊した報恩蔵を改修）

黒谷別所と呼ばれた法然聖人ゆかりの旧跡。聖人が、十八歳から四十三歳までの二十五年間にわたって、「聖」としての生活を続けられた場所です。十八歳の若い聖人は、叡山内での立身栄達の道を捨て黒谷の叡空上人の許での修業を決断されました。その時、叡空上人は「少年にして早く出離の心をおこせり、まことにこれ法然道理のひじりなり」（『法然上人行状絵図』）と感心されたといひます。

昨年、修復された経蔵「報恩蔵」は、善導大師『観経疏』の、「一心に弥陀の名号を専念し、行住坐臥、時節の久近を問わず、念々に捨てざるをば正定の業と名づく、彼の仏願に順ずるが故に」の御文に出会われた場所と伝えられています。



青龍寺本堂（左手に法然聖人坐像）



修復された経蔵（報恩蔵）

比叡山横川 恵心院と恵心僧都墓所（2016年には恵心僧都千年遠忌を厳修）

比叡山において末法到来前に著されたのが源信の『往生要集』（984）でした。良源が藤原氏の援助で比叡山を再興したことにより、比叡山横川は藤原氏出身の僧たちによって支配され、貴族化・世俗化が進みました。もともと、横川は円仁が同朋教団を確立するために開いた場所でした。そこで、源信は横川を円仁以来の修行の場に戻そうと努めたのです。『往生要集』撰述の背景にはそのような事情がありました。（母からの訓誡の句「後の世を渡す橋とぞ思いしに世渡る僧となるぞ悲しき」）

源信（げんしん）942（天慶5）～1017（寛仁1）平安中期の天台僧。大和（奈良県）の出身。幼くして比叡山に登り、後に座主となった良源に師事、13歳で得度受戒した。その秀れた才学によって33歳のとき、法華会の広学堅義（りゅうぎ）にあずかり、名声を得たが、いつの時か、名利を嫌って横川（よかわ）に隠棲した。隠棲後、頼まれて仏教論理学（因明 いんみょう）に関する著述をものし、また44歳の年、往生極楽の教行こそ末代の目足であって、頑魯の者のための道であると断じて『往生要集』3巻を完成し、日本浄土教史に一大金字塔を打ちたてた。『岩波仏教辞典』より



横川恵心院



恵心（源信）僧都御墓

巡拝という趣旨からも、各堂内及びご本尊の撮影は厳禁です。心のフィルムにしっかりと焼き付けて、よい思い出として頂きたいと思います。